

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

7月20日付の岩手日日新聞に「反抗期のトリセツ②」という連載コラムがありました。中学校や高校のスクールカウンセラーとして23年間、中高生や保護者の悩みを聴いてきた、明治大学教授の諸富祥彦先生の記事でした。以下「～ ～」はコラムの引用です。

～反抗期の子どもを持つ親から相談を受けてきて、何度も聞く言葉があります。「うちの子、私には本音を語ってくれないんです」という不安やいら立ちです。～

という冒頭の文章に目が留まり、読み進めました。

～親が何を聞いても、子どもは「別に」「それで」「分かんないよ」しか言ってくれない。そのため親御さんは「本音を語ってくれない」と思ってしまうがちです。～

我が家の高2の娘も同じ感じだなと思いました。話しかけると短文での答えが返ってくるので、分からない部分を質問すると面倒くさそうに、また、短文での返答…。聞きたいことをすべて聞こうとすると、時間がかかるので、お互い面倒になり、会話が少なくなってきていました。そんなある日、私が洗濯物を干していると、娘がサイズの小さくなった洋服を片付けながら、「もう、大人だね」と言いました。「体が大きくなったから大人じゃないよ。心も成長しないと…」と大人について語っていると、「そんなことじゃないよ！！」と泣き出しました。「小さくなった洋服のデザインが幼く見えたということを書いたかった。ママが言っていることはいつも正しいけど、私の話をちゃんと聞いてくれない。」と言いました。親の考えを言っても自分の考えを言うことが多くなってきて、あまり干渉しなくなっていた上に、会話が少なくなってきていたことも重なり、娘の一言に深く反省しました。

～思春期の子どもたちの多くはどうしたらいいのか、自分の気持ちが分からなくなっています。これが多くの子どもたちの本音です。「分かんない」という言葉こそ本心なのです。にもかかわらず、多くの大人は気が短く、すぐに答えを求めてくる。「それで？」「あなたは どう思ってるの？」と聞いてくる。だから、「うざい」となるのです。子どもが自分自身で答えをゆっくり見つけていく。そのプロセスに寄り添い、「待てる親」でいたいものです。それには、子どもだから無理と一方的に決め付けず、一人前の人間として扱うこと。そして「どうしてできないの？」という否定的な声掛けはやめ、「あなたならできる」「失敗しても大丈夫」と信頼をベースに肯定的な声掛けをする。～

私が深く反省した出来事についてのトリセツでした。高校生という年代は、親から与えられた価値観を手放し、自分なりの新しい価値基準を見つけていく不安定な時期です。だからこそ、親はジャッジを示さずにしっかりと話を聞き、一歩離れた場所から見守りピンチの時には支える、「待てる親」対応を心がけたいと思いました。

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★